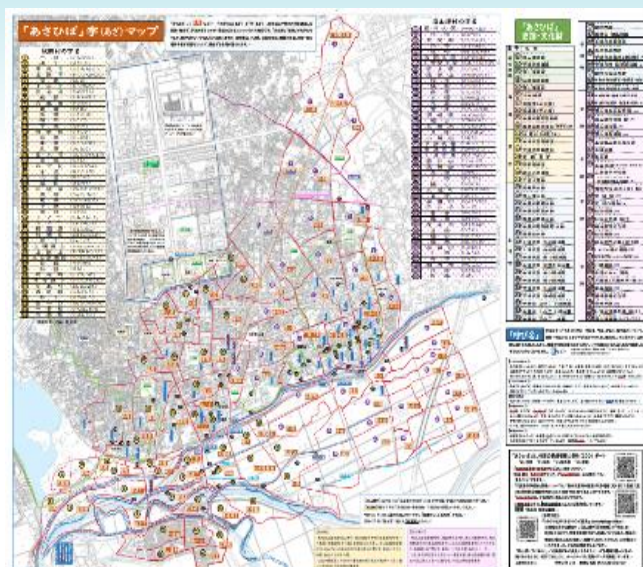


『ひがしくさんぽ』

「身近な地名・字名」

住所の表示（「住居表示制度」）について以前このコーナーで触れましたが、お住いの住所・地名の由来について考えたことはありますか？土地の地形や風土が由来となったものや、その土地に縁のあった偉人からつけられた地名など由来は様々です。由来を解き明かしていくのは困難ですが、秋津まちづくりセンター周辺の地名についていくつか触れてみます。「秋津」という名称は、明治22年

（1889年）に秋田村と沼山津村が合併して（それぞれの村名から「秋」と「津」をとって）できました。秋津村、沼山津村には、それぞれ小さな単位の地名＝字名（あざめい）が90ありました（秋津公民館ホームページに「あさひば字マップ」掲載）。現在使用されているのはわずかになりましたが一部紹介します。



◆公園に残る字名・・・鶯原（うぐいすばる）➡ うぐいす原公園（花立2丁目）、古屋敷（ふるやしき）➡ 秋津古屋敷東・南・北公園（秋津レークタウン内）、水溜（みずたまり）➡ 水玉公園、間島（ましま）➡ 秋津間島前まちの広場、横畠（よこはた）➡ 横畑公園、古閑前（こがのまえ）➡ 桜木東こが前公園

◆住所やバス停、学校名に残る字名・・・花立、桜木、佐土原、古閑など

秋津まちづくりセンターがある場所は、貝塚のあった場所で「貝原」（きゃあばる）という字名でした。

「こんなところに貝塚？」と驚いて調べてみると、縄文時代には、まちづくりセンター南側は海岸だったということがわかり新しい発見と驚きにつながりました。

（秋津まちづくりセンター ☎368-2200）

